

## チャレンジ！野菜づくり

高温好みで乾燥を嫌う、サトイモ作りのポイント



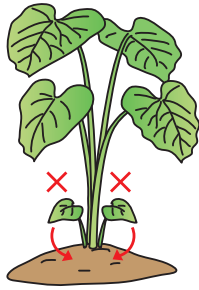
山で採れる山芋に対し、人の住む里にできることからサトイモの名があり、原産はマレー半島付近の熱帯の多湿地。日本には中国を経て渡来、稲作以前は日本の主食であったとされる野菜の大先輩です。

主成分はでんぷん質。加熱すると糊化し消化吸収しやすくなり、カリウムが豊富に含まれ、意外に低カロリー。体脂肪や生活習慣病が気になる人にもお勧めです。

親芋が中心にあり、子芋、孫芋がその周りに付くサトイモには、通常子芋、孫芋を食べる子芋用と親芋を食べる親芋用、葉柄を食べる葉柄用があります。

サトイモは連作障害が出やすい野菜なので、少なくとも3〜4年

(図1)

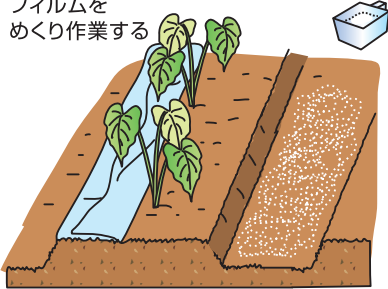


脇芽を取り除くか埋める

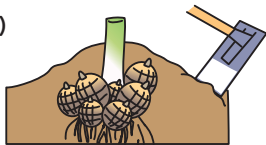
(図2)

本葉が5〜6枚の頃から追肥、土寄せ

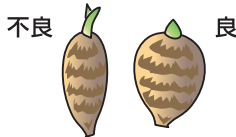
フィルムをめぐり作業する



(図3)



肥料を埋めるように通路の土を株元に寄せる



芽かき、土寄せが足りないと細長い不良品が多くなる

先月号の内容に一部誤りがございました。詳細については、P13のインフォメーションをご覧ください。

作ったことのない場所を選んで栽培しましょう。

高温性で生育適温は25〜30℃、植え付けは十分地温が上がってから、植え付けの深さは7〜8cm、植え付けたら畝上にポリマルチをし、地温の上昇を図ります。

マルチの下で、芽が伸び始めたから遅れずにフィルムを破り芽を上へのぞかせます。

芽が勢い良く伸びだしたら、太い芽1本だけを伸ばし、小さな芽は早いうちにかき取ります。土寄せ前なら芽を倒して土で埋めてしまっても良い方法です(図1)。

本葉が5〜6枚になった頃、畝の通路側に肥料(1株当たり油かす大さじ3、化成肥料大さじ2が

目安)をばらまいて(図2)、土と混ぜ合わせながら株元に土寄せをします。

マルチフィルムは片寄せして作業し、再び覆います。土寄せの厚さは4〜5cm程度にし、2〜3週間置きに3回ほど行います。第2、3回の土寄せの前にも第1回同様に追肥しますが(図3)、葉が茂り過ぎなら肥料は控えめにしてください。第3回はマルチを除去して作業します。あまり遅くまでマルチをしておくと高温と乾燥のために芽つぶれやひび割れなど、子芋の障害の原因になるので注意します。

サトイモは日照り不作といわれるほどに、夏の乾燥には弱いです。降雨が少なく、土が乾き過ぎるようでしたら灌水を心掛けましょう。例年乾きが激しい畑には作付けない方が良いでしょう。

## 肥料・農薬のご紹介

梅雨時期のお悩み解決！  
ナメクジ退治に

「スラゴ」



「スラゴ」は家庭菜園や花壇での果物や野菜の生産及び花き栽培に使用できる効果的なナメクジ駆除剤です。

### 【特徴】

- ①天然物由来の成分
- ②雨や湿気に強い
- ③ペット(犬や猫)、家畜等のいる周りでも使える
- ④花壇や農作物の周り、株元にパラパラとまくだけ

簡単で使いやすいナメクジ駆除剤なので、梅雨時期にお悩みの方は、ぜひ一度、ご使用ください。※お気軽に各営農センター(営農購買課)へお問い合わせください。